

## 令和8年度教育活動計画

### (1) 教育課程の方針

- ①学習指導要領を踏まえ、生徒の人間として調和のとれた育成のため、地域や学校の実態、小学校との連携および生徒の心身の発達段階や特性等を考慮して編成する。
- ②学校教育目標「学ぶ喜びと思いやりにあふれ、たくましく生きる生徒の育成を具現化するために、教育課程を編成する。
- ③「指導と評価の一体化」の具現化を念頭に置き、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の展開を図り、知識・技能の定着や学習意欲の向上を図る。
- ④教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、小学校・家庭や地域社会との連携を図り、さまざまな体験活動や話し合い活動を通して生命尊重の精神と豊かな心、道徳性の発達を促す。
- ⑤総合的な学習の時間においては、地域社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を設定し、調査や体験を通して得られた多様な情報を元に分析しながら、探究的な学習に、主体的・協働的に取り組み、結論を導き目的に応じてまとめ・表現することができるようにする。
- ⑥体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて行うとともに、家庭・地域社会と連携をとり、日常生活での活動実践を促し、生涯を通して健康・安全な生活が送れる基礎を培うよう努める。

### (2) 教育課程編成の重点

- ①学習指導要領に沿った各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間等の年間指導計画を作成し、学習内容を明らかする。それぞれの単元で、生徒が主体的に学ぶ授業の実践をめざし、単元計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。
- ②話し合い活動を各教科で重視し、思考力、判断力、表現力、道徳性を育成する。
- ③少人数授業、習熟度別学習、ティームティーチングなど様々な授業形態によってわかる授業に努める。ICTを活用し、個別最適な学び、協働的な学びを推進する。
- ④地域・家庭・関係諸機関との連携を図り、特色ある教育活動推進するとともに、開かれた学校づくりをめざす。
- ⑤信頼される教職員をめざし、積極的な教育実践交流、研修への参加を促すとともに、組織的な教育活動と実践的な研究・研修を推進する。
- ⑥小中連携教育を推進するため、時程を合わせる等の工夫により、学校行事のみならず教科・領域においても、学びのスタンダードを作成し、連携を意識して授業を行い、時には児童・生徒が共に学ぶ機会を創る。
- ⑦心を育てる読書活動を推進する。
- ⑧家庭との連携を密にし、睡眠や望ましい食生活等の基本的な生活習慣の確立と心身の発達に応じた体育・健康・安全教育に関する指導を推進する。

### (3) 授業時数

- ①各教科・道徳・学活・総合的な学習の時間は年間35週とする。

- ②週あたりの授業時数は28時間とし、1単位時間は50分とする。
- ③1年間で2つの期間に分け、2種類の時間割を実施することで、  
教科時数の確保と必要な時期に適切な教科の時間が確保できるようにする。

【1学年 時間割の変更について】													
前期	4月	～	10月中旬	(18週)	音楽・美術を隔週	1.5時間、	技術	2時間					
後期	10月中旬	～	3月	(17週)	音楽・美術を	1時間、	家庭	2時間					

【教科別授業時数】

令和8年度		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	学活	総合	計
1年	18週	4	3	4	3	1.5	1.5	3	2	4	1	0.5	0.5	28
	17週	4	3	4	3	1	1	3	2	4	1	0.5	1.5	28
	通年	140	105	140	105	*45	*45	105	70	140	35	*35	*50	1015
2年	通年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	0.5	1.5	28
		140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	*35	*70	1015
3年	通年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	0.5	1.5	28
		105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	*35	*70	1015

\* 8月25日～31日が授業日のため、通年で授業時数を調整。

(4) 週日課

- ①水曜日・金曜日を5時間授業とする。
- ②木曜日の6校時を学級活動と総合的な学習の時間を隔週とし、週あたりの授業時数を28時間とする。学級活動と総合的な学習の時間は、行事前などで年間時数になるように調整する。
- ③水曜日はノー残業デーとし、部活動を実施しない。  
原則、職員会議等の会議とする。
- ④教科部会は必要に応じて時間割に組み込み実施する。
- ⑤1学年の音楽・美術の2コマ目を前期で隔週とする。
- ⑥朝読書の時間は定期テスト1週間前から朝学習をしてもよい。
- ⑦生徒指導部会を金曜日の5校時、主任会を水曜日の4校時、研究部会を月曜日の6校時に設定 ICT委員会火曜日の6校時(月1～2回)

日課

【週日課】	月	火	水	木	金
	朝の読書				
	朝の会				
1校時					
2校時					
3校時					
4校時			主任会		
	給食				
	昼休み				
	清掃				
5校時			道徳	2・3年総合 後期全学年総合	生徒指導部会
6校時	研究部会	I C T委員会	帰りの会	総合・学活	帰りの会
	帰りの会	帰りの会		帰りの会	

\*道徳・会議については、初任者指導の先生の勤務日で変更の可能性あり。

(5) 時程

①清掃を昼に実施。

②令和7年度からは、明海南小学校と同じ校舎での教育活動となるので、1・3・5時間目の開始のみチャイムを鳴らす。

③定期テストの時のみ中学校に合わせてチャイムを鳴らす。

45分日課のときは昼休みの放送を入れない。

③日直清掃（火・木）は、帰りの会中に教室・廊下等のゴミ拾いを行う。

④次ページの表にないものは、特別日課として行う。

<日課表 50分授業>

	5時間授業（水・金）	6時間授業（月）	6時間授業（火・木）
着席完了	8：15	8：15	8：15
朝読書	8：15～8：20	8：15～8：20	8：15～8：20
朝の会	8：20～8：25	8：20～8：25	8：20～8：25
1時間目	8：35～9：25	8：35～9：25	8：35～9：25
2時間目	9：35～10：25	9：35～10：25	9：35～10：25
3時間目	10：35～11：25	10：35～11：25	10：35～11：25
4時間目	11：35～12：25	11：35～12：25	11：35～12：25
給食	12：25～13：00	12：25～13：00	12：25～13：00
昼休み	13：00～13：15	13：00～13：15	13：00～13：15
清掃	13：20～13：30	13：20～13：30	
5時間目	13：40～14：30	13：40～14：30	13：20～14：10
6時間目		14：40～15：30	14：20～15：10
帰りの会	14：35～14：45	15：35～15：45	15：15～15：25
下校時間	15：00	16：00	15：40

\*金曜日は帰りの会終了後、整理整頓時間として5分間確保する。

	浦教研
着席完了	8 : 1 5
朝読書	8 : 1 5 ~ 8 : 2 0
朝の会	8 : 2 0 ~ 8 : 2 5
1時間目	8 : 3 5 ~ 9 : 2 5
2時間目	9 : 3 5 ~ 1 0 : 2 5
3時間目	1 0 : 3 5 ~ 1 1 : 2 5
4時間目	1 1 : 3 5 ~ 1 2 : 2 5
給食	1 2 : 2 5 ~ 1 3 : 0 0
昼休み	
清掃	
5時間目	
6時間目	
帰りの会	1 3 : 0 5 ~ 1 3 : 1 5
下校時間	1 3 : 3 0

\* 8時15分まで「着替え・準備を終え、読書を開始する」とする。

\* 下校時間は、放課後の活動（専門委員会や部活動等）場所へ移動していることとする。

\* 下校時間に担任は教室の戸締りを終え、教室に残っている生徒がいないように指導・確認をする。

\* 下校時間後に教室に残る場合(学年行事等)は、担任等が教室で共に作業をする(生徒だけで残らない)。

\* 放課後の活動がない場合は、下校時間5分後には正門を出る。

## (6) その他

- ①保護者会の日は、5時間授業の45分日課、日直清掃。
- ②評定点検の日は、5時間授業。または6時間授業の45分日課。
- ③合唱祭の練習期間は、月曜日のみ45分日課。合唱練習20分間。
- ④6時間授業の日に、急遽運営委員会等の会議、専門委員会、職員研修会を行う場合は、45分日課を行うこともある。

## (7) 未定の行事

- ①1年：校外学習（1年主任）
- ③1年：職業講演会（1年主任）
- ⑤2年：思春期講演会（養護教諭）
- ⑥1年：歯のすこやか教室（養護教諭）
- ⑦全学年：SNS講演会（生徒指導主事）
- ⑧2年：薬物乱用防止教室（養護教諭）
- ⑨2年：がん教育講演会（養護教諭、体育主任）

\* その他の詳細は、年間行事予定で確認。年間行事予定は、職員用と保護者用があるので、外部に出す際には注意する。

## (8) 今年度教育課程の重点課題(働き方改革も含む)

### ①分掌引き継ぎシートの活用

以下のフォルダーに分掌ごとに「引き継ぎシート」を作成。

それを参考に、今年度の教育課程や教育活動を編成する。→分掌担当フォルダーにデータ保存し、次年度の担当に引き継げるようにする。持続可能なシステムの構築

### ②指導と評価の一体化を目指した授業改善・評価材料の工夫

「評価材料の説明」を意識し、生徒と評価方法・評価材料をしっかりと共有したうえで、「何を取り組んでいけばいいのか」見通しを持って課題に取り組ませる。

→シラバスで生徒に何を評価しているかわかるように書く。単元計画の作成

新し単元に入るときに作成し、教科ファイルに保管

### ③No残業Dayの意識向上

水曜日は遅くとも18時には退勤をめざす

### ④生徒のタブレットを活用した文書の作成、情報の共有する力を高める。